

**令和 5 年度 北海道立総合博物館協議会  
アイヌ民族文化研究センター専門部会 議事概要**

開催日時	令和 6 年 3 月 1 2 日（火） 1 3 時 3 0 分～1 5 時 3 0 分
開催場所	北海道博物館 講堂
出席者	【委員・特別委員】 小川哲也部会長、白石英才特別委員、藤岡千代美特別委員、 村木美幸委員、結城幸司特別委員（以上 5 名出席）
欠席者	関根真紀特別委員
傍聴者	0 名

**【議 題】**

**（1）令和 5 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会実施報告**

- ・事務局より（資料 1）「令和 5 年度第 1 回北海道立総合博物館協議会議事録」を用いて昨年 12 月 8 日に開催された博物館協議会の議事内容の報告を行ない、委員から事務局への質疑及び意見があった。
- ・委員より、配付資料や事務局の説明には「合議」等の一般にはあまり用いられない用語が多くわかりにくいとの指摘があり、事務局から資料や報告内容は簡潔でわかりやすい表現とするようつとめたい旨を回答した。

**（2）令和 4 年度アイヌ民族文化研究センター事業実施報告**

- ・事務局より（資料 2）「令和 4 年度博物館評価結果 事後評価結果（概要）」及び（「資料 3」）「令和 4 年度 アイヌ民族文化研究センター事業経過報告」に基づき、令和 4 年度の事業実績ならびにその評価について報告を行い、委員から質疑及び意見があった。
- ・「資料の収集・保存」について、委員から、「購入／寄贈の内訳はどれくらい？」「資料の公開の進捗（R4年度の公開件数が少ないようだが、見通しはどうか？）」「資料の利活用（資料の熟覧・視聴）の現況」等の質疑があり、それぞれ事務局から、当館の資料収集は寄贈が基本であること、公開については準備を進めており R5年度以降に新規公開点数を増やしたいと考えていること等を回答した。
- ・「展示」等の事業におけるアイヌ文化の取り上げ方について、委員から、資料を調査・収集した研究者やその収集資料が多く取り上げられる傾向があるように感じられるが、文化を伝えた主体であるアイヌのほうに焦点を当てることを大事にしてほしい、また、地域の違いによるアイヌ文化の多様性に着目した発信につとめてほしい等の提言があり、事務局から、それぞれ至当な指摘であり、そのような姿勢につとめていきたい旨を回答した。

**（3）令和 5 年度アイヌ民族文化研究センター事業経過報告**

- ・事務局より、（資料 4）「令和 5 年度 アイヌ民族文化研究センター事業経過報告」に基づき令和 6 年 2 月までの当年度の事業実施状況について報告を行い、委員から質疑及び意見があった。
- ・「展示」におけるアイヌ文化巡回展の年度ごとの参加者の多寡の背景・理由や、来館者の満足度の数字の背景、「教育普及事業」における行事の参加者数、事参加者数などについて委員から質疑があり、事務局から、巡回展については会場の立地等の条件による多寡が見られること、当館としては、集客についても配慮しつつ、多くの集客が見込めない場合であっても地域的なバランスや必要性を考慮して開催地を決める場合もあること等を回答した。

#### (4) 令和6年度アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）

- ・事務局から（資料5）「令和6年度 アイヌ民族文化研究センター年度計画（案）」に基づき、令和6年度の事業計画について報告を行い、委員から質疑及び意見があった。
- ・委員からは博物館が取り組んでいる「樺太記憶継承事業」の内容や、グループレクチャーの件数（館全体の中での割合や、職員の負担として見た場合の考え方など）について質疑があり、事務局から、グループレクチャーの概要について説明するとともに、業務負担については例えば上限やバランス等には配慮して進めているが、今のところその範囲内で対応できていること等を説明した。委員からは、学校団体で来館する子どもに対するレクチャーの重要性について提言があった。
- ・委員から、この専門部会での協議内容を実際に博物館のR6年度やそれ以降の計画に反映させるようつとめてほしいとの提言があり、事務局より、現在～反映していけるものはそのようにつとめたい旨を回答した。

#### (5) その他

- ・全体を通して、委員から、博物館が様々な事業に取り組み成果を挙げていることは資料からうかがえるが、それらの成果をアイヌの側に、とくにこれからの担い手になってほしい世代などにとどけることに博物館がいつそうつとめることや、所蔵しているアイヌの歴史・文化についての資料をアイヌの側が利用しやすい取り組み（収蔵庫内資料の熟覧など）にいつそうつとめてほしい等の提言があった。